

「武道推進モデル校」事業を活用した
複数種目（なぎなた・相撲）の実践

山口県萩市立田万川中学校
校長 河井 剛史
教諭 野村 大志

本校は山口県萩市の北東部に位置し、島根県と隣接した自然環境に恵まれた学校である。20年前に当時の田万川町内の中学2校が統合し、今年で創立20年目を迎えている。創立2年目から県内初のコミュニティ・スクール（学校運営協議会）の推進校として、年間30回を超える地域人材などを活用した授業や行事を教育課程に組み入れ、教育活動を実践している。また、本校校舎は地域図書館を含めた地域交流ゾーンと教科教室型の学習ゾーンが一体となっており、まさに「地域とともにある学校」として今に至っている。

本校では相撲と縁が深い土地柄であることから約10年前から相撲の授業を行っている。また、令和3年度から、複数種目の武道実践モデル校に指定され、従来の相撲に加え、なぎなたの授業をスタートさせた。本稿では同年度の本校でのなぎなたと相撲の授業実践を紹介する。



校舎全景

1 はじめに

本校は各学年が13名、全校生徒39名と非常に規模の小さな学校である。校区内にある二つの小学校には土俵が設置されており、以前から相撲大会が定期的に開催されるなど、相撲と縁が深い。

もともと、武道実践による教育的効果として、武道の基本となる礼儀作法や正しい姿勢などの立ち振る舞い、足さばきや体さばきなどの基本動作の習得が挙げられる。

そうしたこともあって、約10年前から、毎年12月に保健体育科の学習として相撲を単元に組み込み、授業を行っている。講師は県相撲連盟から専門の方を招聘し、指導をお願いしてきた。

- ①相手と真剣に対峙し勝負を楽しむ
むという武道特有の面白さを実感できること。
- ②伝統文化に対する興味・関心を高めることができること。
- ③生涯体育への意識を醸成することができること。

令和3年度から、複数種目の武道実践モデル校に指定され、従来の相撲に加え、なぎなたの授業をスタートさせた。なぎなたの指導者は、山口県立長府高等学校などなた部元顧問の江夏久美子先生と現顧問で教諭の嶋田信子先生を県なぎなた協会からご推薦いただき、依頼をした。

2 武道学習の指導計画

令和3年度 武道授業単元計画

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
種目		なぎなた				相 撲				
学習の流れ	オリエンテーション	導入（あいさつ、健康観察、本時の学習の見通し）								
		基本動作の学習 （足さばき、自然体）		基本動作の学習 （構え、足さばき）		相撲の歴史 について	基本動作 （蹲踞、塵浄水、四股、すり足）			
		打突の学習 （正面、すね）		持ちかえ技 （側面、すね）		基本動作 （礼儀 （四股） （すり足）	まわしのしめ方		突き押し	
		対人技能の学習 （受け方）		打ち返し			ミニゲーム （瞬発力） （足さばき）	突き押し	主審、進行 の練習	
				リズムなぎなた						
		整理（本時の振り返り、次時の連絡、あいさつ）								
		学習のまとめ								

指導計画を立てるにあたり、事前に講師と打ち合わせを行った。日程や生徒の学習状況、安全確保の方策、役割分担などの調整とともに、コロナ禍ということもあり感染対策にも万全の配慮を行った。

なぎなた、相撲の授業ともに各5時間で実施した。特になぎなた授業については、初めての実践であったため、礼儀作法や道具の扱い方、基本動作の習得を中心とした。

相撲については、例年、単元の最後に全校生徒による相撲大会を開催していたが、新型コロナウイルス感染症対策のため、開催を見合わせた。身体接触をできる限り防ぐために、突きや押しなどの基本動作の習得を中心に学習計画を立てた。次年度以降にスムーズに相撲大会

私の歩んだなぎなたの道

戦前の薙刀術教員養成所に始まる著者の半生を振り返りながら、
なぎなたの素晴らしさを謳い上げる。

元全日本なぎなた連盟顧問 徳永千代子 著



四六判・上製・252頁・定価 2,640円

◎ご注文・お問い合わせ◎

(公財)日本武道館 月刊「武道」編集部
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158
<https://www.nipponbudokan.or.jp>



【なぎなた】模造刀と比較し、なぎなたの特性を学ぶ



【なぎなた】輪になって基本技を確認する生徒たち



【なぎなた】打ち返しの練習



【相撲】すり足と瞬発力を身に付ける練習



【相撲】互いに確認しながらまわしをしめる生徒たち



【なぎなた】自然体で講師の説明を受ける

3 指導内容

を開催することができるよう、
決まり手の種類や主審の進行方法
を立てた。

【複数種目の学習効果】

授業の流れとして、なぎなたの
後に相撲を学習することで、共通
する礼儀作法や基本動作を効果的
に身に付けることができると考え
た。

さらに、攻防一体型対人競技で
あるなぎなたによって、相手と駆
け引きをするという面白さや楽し
さが実感でき、身体一つで相手と
対峙する相撲によって、力強さと
息詰まる攻防技を表現するとい
う、それぞれの魅力を同時に体験
できることに複数武道を学ぶこと
の面白さがあると考えた。

【実践研究のねらい】

実践研究のねらいとして、次の
4点を掲げた。

①地域スポーツ指導者の専門的な
指導により生徒の意欲や関心が
高まる。

②武道の歴史、礼法および伝統的
な所作や作法を専門的に学ぶこ
とを通して、相手を尊重し、伝
統的な所作や作法を守ろうとす
る意識を高める。

③地元田万川地域で伝統的に親し
まれてきた相撲文化の伝承する
態度を養う。

④地域スポーツ指導者との交流な
ど、多くの方々と触れ合うこと
で、社会性を身に付ける。

【実践内容】

(1)なぎなた

剣道の認知度はある程度高かつ
たものの、なぎなたについては見
たことがあるという生徒はほとん
どいなかった。そのため、オリエ
ンテーションでは、剣道との比較
を通して、なぎなたの成り立ち
や、模造刀や胴着について説明し
た。さらに学習内容や基本動作に
ついて動画を活用しながら説明す

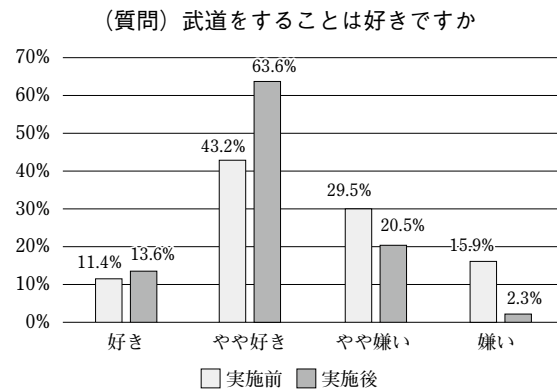
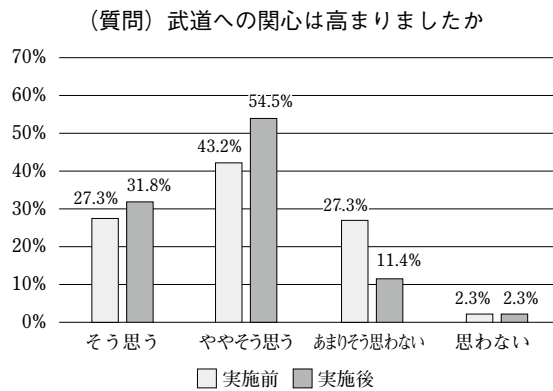
ることで、なぎなた特有の一連の
動きを視覚的に捉えさせることを
心がけ、武道への関心を高めさせ
た。

側面打ちやすね打ちなどの打突
の基本を学習した後は、全員で息
を合わせて基本技能の確認を行っ
た。互いの動きを捉えやすいよう
に生徒が輪になって取り組むこと
が重要で、全員の動きが見事一致
した時の美しさに感動を覚える生
徒が多く見られた。

打ち返しの学習に続いて、「リ
ズムなぎなた」を行った。相手と
相対して、リズムなぎなたを行う
ことで、互いの打突や間合いを確
認しながら技能を高めることがで
きた。相手と呼吸を合わせながら
打ち返しをする活動を通して、相
手を思いやることの大切さを実感
できているようであった。

(2)相撲

初めに相撲の歴史や土俵の成り
立ちについて、講師の方から講義
を受けた。まわしのしめ方につい
ての示範を見た後、実際に生徒相



たちにとって、武道に対する印象はある程度良かったことがうかがえる。同じ質問を複数種目実施後に行ったところ、77・2%の生徒が「好き」「やや好き」と回答しており、印象がさらに良くなっていることがうかがえた。

また、「武道への関心は高まりましたか」という質問に対して、事前アンケートで「そう思う」「ややそう思う」と回答した生徒は70・5%だったが、事後では86・3%に増加しており、これらの結果から、複数種目の武道を実践することで、武道に対するイメージを向上させることができたと思われる。以下に列記する。

- ・日本の伝統文化についてもっと知りたいと思いました。
- ・日本の伝統文化について知らなかったことも多く、より大切にしたいと思うようになりました。

本校では長年にわたり武道の単元で相撲を行ってきたが、今回の「武道推進モデル校」の指定を受け、武道に多角的に触れたことによって、礼儀・技・伝統文化などの武道の意義をより一層理解することができるようになった。このことが複数種目実践の一番の教育効果ではないかと考える。

また、武道の専門家である講師の方々から手厚く、そして温かい指導を受け、生徒は武道の難しさ

5 成果と課題

・日本の（伝統的な）スポーツに興味を持つようになりました。

・今まで知らなかったルールや技を知ること、今後テレビなどで楽しみながら見ることができると思いました。

・体育館に入るときに、きちんと止まって挨拶をしようと思えました。

以上のように、武道に対する肯定的な感想を数多く見ることができた。これらの結果から、複数の武道に触れたことによって、その魅力や面白さに気付いたり、実感したりすることができたのではないか。

や堅苦しさを感じることなく、意欲的に授業に取り組むことができたようである。

今後の指導においても、できるだけ多くの武道を紹介しながら、他の武道種目との比較を通して、技能面の指導にとどまらず、すべての武道の根底にある美しい所作や凛々しい態度など、武道の素晴らしさや魅力を生徒が実感できる授業づくりに努めていきたい。



【相撲】基本動作（四股）の練習



【相撲】主審、進行の練習

互でまわしを着けた。当初は締め方を覚えられない生徒が多かったが、3時間目にもなると、資料を確認することもなく、生徒相互で教え合いながらまわしを着けることができるようになっていた。

続いて、講師の示範を模倣しながら四股やすり足の動作を繰り返した。慣れない姿勢に苦しそうな表情を浮かべていた生徒もいたが、講師の力強くしなやかな動作や真剣な眼差しに迫力を感じたようで、生徒自身も一生懸命に真似ようと挑戦していた。

最後は、次年度の校内相撲大会開催を見据え、主審の進行の仕方を学習した。軍配はうちわで作成した簡易なものではあるが、裏面に呼び上げのセリフを書いておくことで、誰でも取り組みを進行できるようにした。

【安全確保のための配慮】

生徒の安全確保のために、事前や活動中に次の4点に注意を払い活動を進めた。

4 アンケート結果から

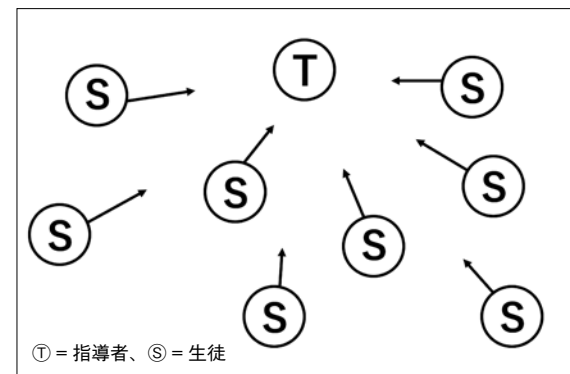


図1 基本技練習時の隊形

①どちらの種目も、外部指導者と教員あわせて3名が指導に当たる。安全面を最優先に、生徒を指導する者、支援する者、全体を見渡す者とそれぞれが役割を

意識し、きめ細やかな指導や支援を行った。

②なぎなたでは、武具による接触がないようにするため、生徒の並び方は普段とは違い、前方中央に位置する指導者が見え、かつ隣との距離が十分に確保できる位置を取らせた（図1）。また、互いに声を掛け合うようにした。

③相撲では、体育館に簡易型の室内土俵を設置し、安全の確保を図った。

④2種目とも裸足で行うため、授業前に必ず体育館をモップ掛けし、目視でも床面の破損や危険な物が落ちていないかの確認を行った。

生徒への事前アンケートで「武道をすることは好きですか」という質問に対して、「好き」「やや好

き」と回答した生徒は、54・6%であった。地域の特性として小学生の頃から相撲に触れてきた生徒